

資源状況等調査集計及び資源管理計画等作成指導業務 「資源回復計画推進事業」主要漁業種に関する調査研究

吉岡拓也

国民への水産物の安定供給を図るため、計画的な資源管理に取り組む漁業者を対象とした「資源管理・漁業経営安定対策」が平成23年度から水産庁で始まった。本事業の骨子は、漁業共済の仕組みを活用した資源管理・収入安定対策と、コスト対策を組み合わせた総合的な経営安定対策の構築である。徳島県は漁業振興を図る観点から、当該事業の実施に必要な「資源状況等調査集計及び資源管理計画等作成指導業務」を徳島県資源管理協議会から受託している。

今年度は契約に基づいて、資源状況等調査集計業務（「主要漁業種に関する調査研究」、「資源管理に必要な情報提供事業」、「漁獲可能量の適切な管理事業」及び「その他の本業務の実施に当たり必要となる事業」）並びに資源管理計画等作成指導業務を実施した。このうち水産研究課は「主要漁業種に関する調査研究」及び「資源管理に必要な情報提供事業」を担当した。ここでは、「主要漁業種に関する調査研究」について報告する。

方 法

I 機船船びき網漁業

機船船びき網漁業の資源管理を促進するために、次のとおり調査を行った。

1. シラスの漁獲量集計

紀伊水道の代表漁協の瀬戸内海機船船びき網漁業によるシラスの漁獲量を月別に集計した。

2. 漁獲物の魚種重量組成

代表漁協の標本船1隻が漁獲したシラスを無作為に抽出し、10～30g程度の標本を70%エタノールで固定した。これを、カタクチイワシ、マイワシ、ウルメイワシ及びその他の生物に分別し、それぞれの重量を測定した。

II 小型底びき網漁業

小型底びき網漁業の資源管理の取り組みについて、その効果及び影響を把握することを目的とした。今回の調査では、播磨灘における小型底びき網漁業の代表として、漁獲集計システムを導入している漁協のデータを用いた。連続性のあるデータを採取するために、平成15年～平成30年において、漁協への受託出荷を継続して行っている3経営体を標本とした。これらの出漁日数とCPUE (kg/日・隻) の変化を把握するとともに、主要魚種（アカシタビラメ、メ

イタガレイ、マダイ、こういか類、スズキ)のCPUEを求め資源動向を調べた。

結果及び考察

I 機船船びき網漁業

1. シラスの漁獲量集計

平成18～30年における代表漁協のシラス漁獲量を図1に示した。平成30年は、漁の開始も4月末と遅くなり、また黒潮大蛇行の影響を受け、好漁であった昨年より漁獲量は減少した。

2. 漁獲物の魚種別重量組成

漁獲物の魚種別重量組成 (%) を図2に示した。平成30年は、平年 (平成18～29年平均) と比較し、ほぼ平年並みの魚種別重量組成 (%) となった。

II 小型底びき網漁業

1～5月は桁網あるいはビーム、6～12月は板びきによる操業が行われている。のべ出漁日数は60～100日前後で推移しているが、CPUE (kg/日・隻) は平成27年以降減少傾向である (図3)。アカシタビラメ、メイタガレイのCPUE (kg/日・隻) は低調に推移している (図4, 図5)。資源水準は低位、資源動向は減少と考えられる。マダイのCPUE (kg/日・隻) は平成20年以降増加傾向にある (図6)。資源水準は高位、資源動向は増加と考えられる。こういか類のCPUE (kg/日・隻) は夏季の台風、豪雨の影響により、大きく減少した。 (図7)。資源水準は低位、資源動向は減少と考えられる。スズキのCPUE (kg/日・隻) は昨年よりやや上昇した (図8)。資源水準は中位、資源動向は増加と考えられる。

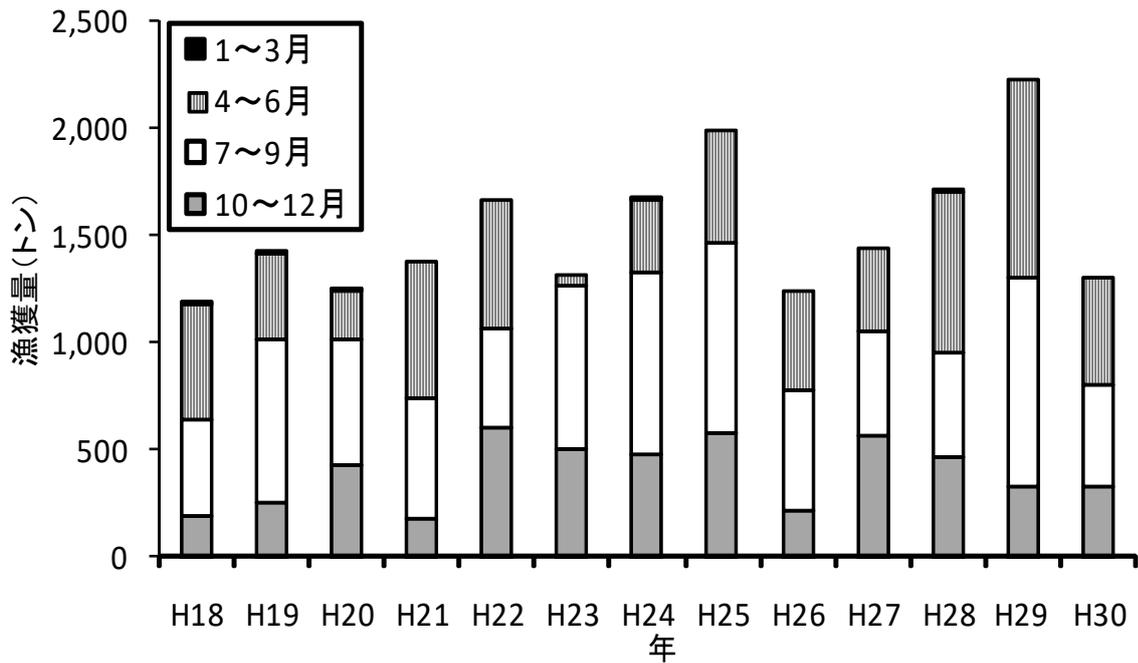


図1. 平成18~30年における代表漁協のシラス漁獲量

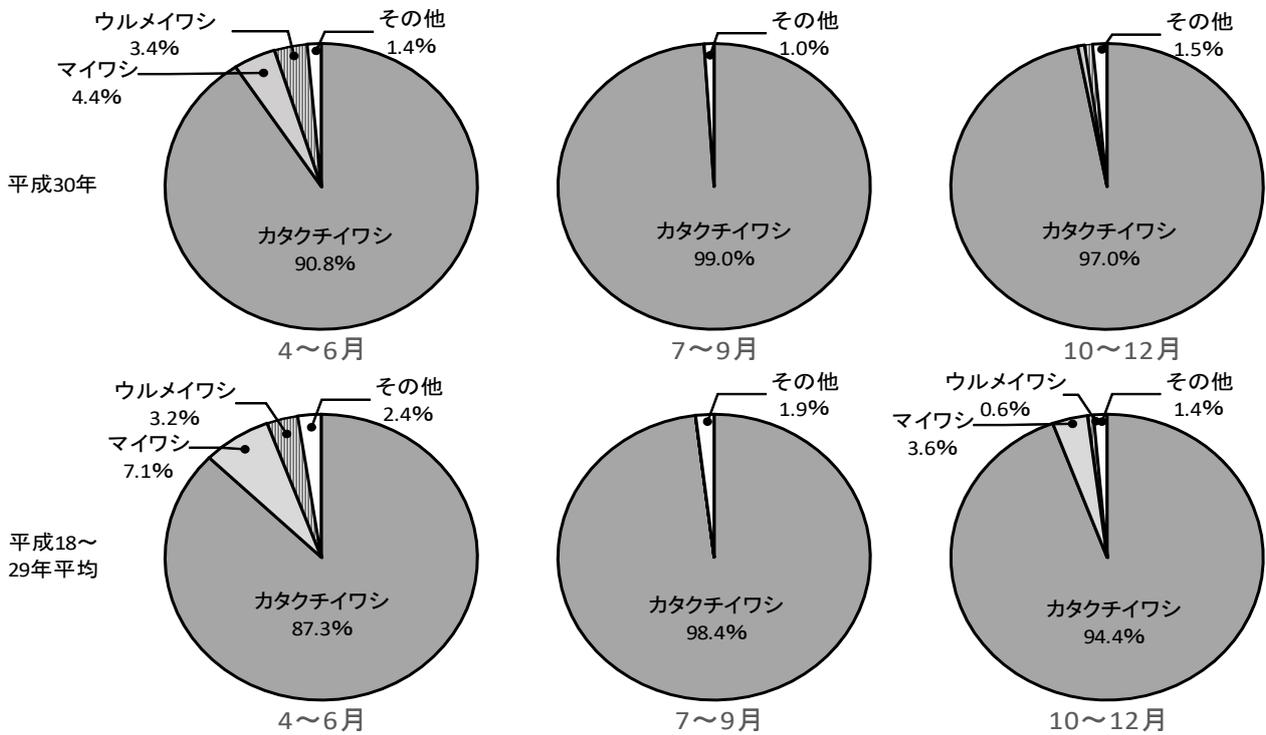


図2. 漁獲物の魚種別重量組成 (単位: %)

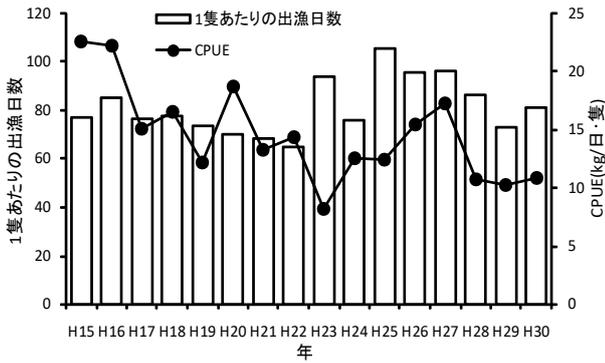


図3. のべ出漁日数とCPUE (kg/日・隻)の推移。

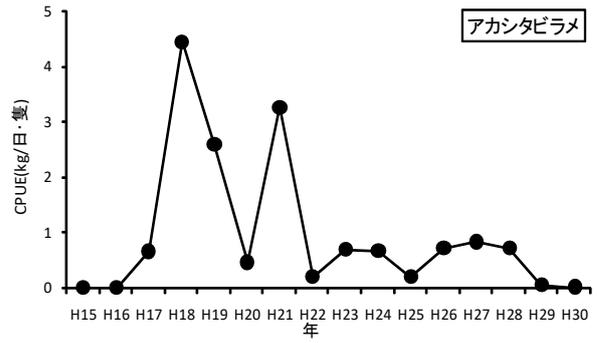


図4. アカシタビラメのCPUE (kg/日・隻)の推移。

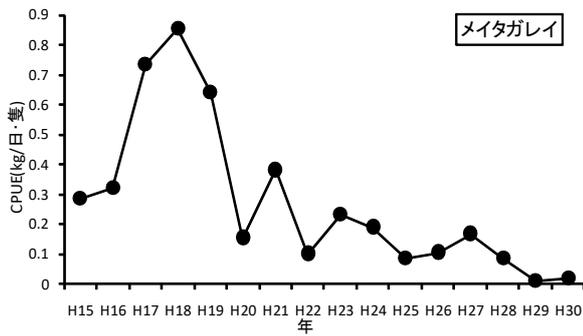


図5. メイタガレイのCPUE (kg/日・隻)の推移。

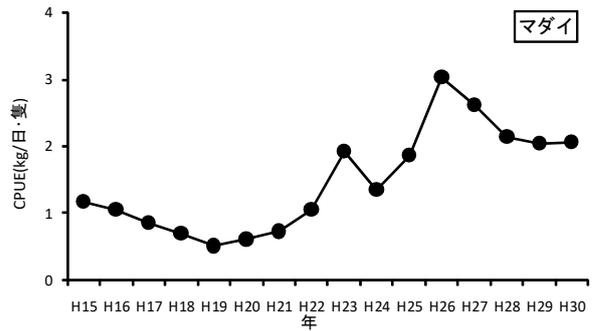


図6. マダイのCPUE (kg/日・隻)の推移。

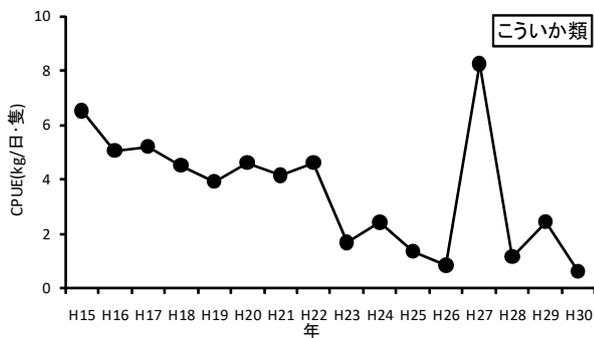


図7. こういか類のCPUE (kg/日・隻)の推移。

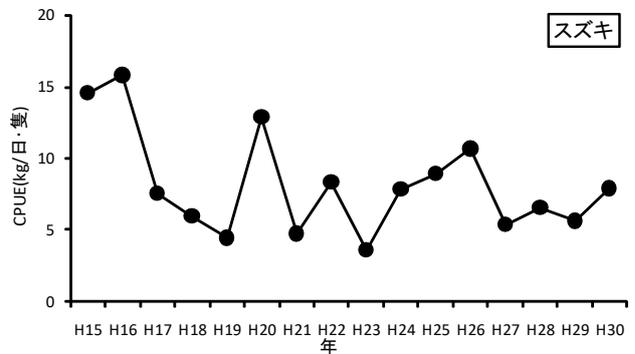


図8. スズキのCPUE (kg/日・隻)の推移。

